

主観的幸福度と多次元貧困の関係性にみる男女間の格差：マダガスカルの家計データを用いた空間計量アプローチ

Gender difference in the relationship between multidimensional poverty and subjective well-being in Madagascar: Spatial micro econometric approach

栗田 匡相（関西学院大学）

Kurita, Kyosuke (Kwansei Gakuin University)

kkurita@kwansei.ac.jp

< 報告要旨 >

本論文では、マダガスカルの中央高地の2地域において収集された379名（211世帯）の個人・世帯データを用いて、主観的幸福度と貧困の関係性について議論を行った。主観的幸福度と経済状況との関係性においては、主に先進諸国でWorld Value Surveyなどを利用した研究が近年盛んに行われているが、マダガスカルのような最貧困国家を対象とした研究は珍しい。また、個人や家計のデータを用いた幸福と経済状況のミクロレベルの実証研究では、経済状況を示す指標として所得や消費、資産の状況といった金銭的な指標が用いられることが多い。しかし近年の貧困研究では、こうした金銭的な指標のみならず、多面的な貧困指標を持ちいる研究が盛んに行われており、本論文では、こうした研究の潮流を受けて、金銭的な側面と多次元貧困で計測した指標の2種類を用いて分析を行っている。更には、近年急速に研究蓄積が進んでいる地理情報データを用いた空間計量経済学の手法を用いることで、かねてより指摘されていた貧困の空間的相互依存関係によるバイアスについて配慮した推計モデルを用いた。分析結果では、男性のデータにおいては金銭的な貧困指標と主観的幸福度に負の関係が見られ、多次元貧困指標においては統計的に有意な関係性を把握することは出来なかった。一方、女性のデータにおいては、男性とは真逆の結果が得られ、多次元貧困指標と主観的幸福度には負の関連性が見られ、金銭的指標には統計的に有意な結果を得ることが出来なかった。